

第9回目玉川大学国際バカロレア 教育フォーラム

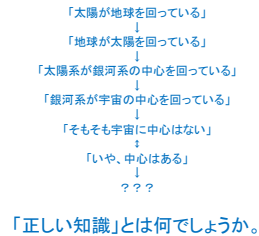
分科会: 体育

形成的評価と総括的評価



国際バカロレア教育

IBは、「世界を理解するために『認識』は重要」と考えます。



国際バカロレア教育

IBの教育には、上記の価値観に即した次のような特徴があります。

- 学習者を中心に置く
- 「指導」と「学習」において効果的な方法を展開する
- グローバルな視野に立って取り組む
- 意味のある学習内容を探究する

これらの4つの特徴が一体となって、IBの教育を形づくっています。

国際バカロレア教育

IBの教育には、上記の価値観に即した次のような特徴があります。

- 学習者を中心に置く
- 「指導」と「学習」において効果的な方法を展開する
- グローバルな視野に立って取り組む
- 意味のある学習内容を探究する

これらの4つの特徴が一体となって、IBの教育を形づくっています。

IBを支える教育原理

すべてのIBプログラムにおいて、以下の6つの主要な教育原理に基づいて指導が行われます。

探究を基盤とした指導

概念理解に重点を置いた指導

地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導

効果的なチームワークと協働を重視する指導

すべての学習者のニーズを満たすために差別化した指導

評価(形成的評価および総括的評価)を取り入れた指導

IBを支える教育原理

すべてのIBプログラムにおいて、以下の6つの主要な教育原理に基づいて指導が行われます。

評価(形成的評価および総括的評価)を取り入れた指導

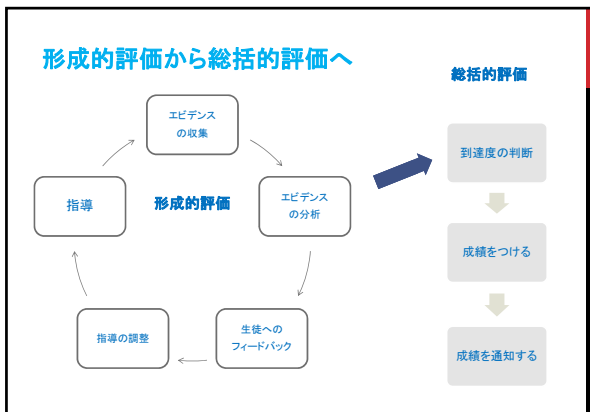
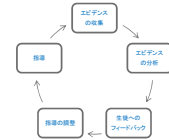
	0	1	2
軸	ぶれている	軸はあるが 崩れが 見られる	一直して 軸がある
跳ねるような足の動き	べた足	跳ねていない	跳ねるよう に足を動か している
鋭い腕の振り	振れていない	少し 振れている	強く 振れている

形成的評価から統括的評価へ

重要なことは、個々の統括的評価プロセスを開始する時に、

その課題について何が生徒に期待されているかを明確にして、

求められていることを生徒が完全に理解できるようにすることです。



形成的評価から統括的評価へ

- 効果的な**形成的評価**は教師と生徒に対して、個人の学習スタイルを振り下げるだけでなく、学習の差別化の参考になる個々の生徒の長所や課題、選択を探る方法を示してくれます。
- 形成的評価**は生徒にとって、統括的評価課題を完成させるために準備する中で、理解の表現を示しそれに磨きをかける重要な機会でもあります。
- 生徒同士の評価と自己評価も**形成的評価**の有効な方法です。

統括的評価課題(MYP1年)

50m走

-グループで協力し、撮影しあう

提出物

- 自分の走りの動画(評価規準C)
- 走り进行分析したレポート(評価規準A)

統括的評価課題の評価規準(MYP1年)

評価規準C

到達度	説明	単元での解釈
0	以下に説明されているどの水準にも達していない	以下に説明されているどの水準にも達していない
1-2	i. スキルと技法の一部を思い出している ii. 方策と運動概念の一部を思い出している iii. パフォーマンスを行うための情報を応用しているが、成功は限定的である	i. 走りのポイント(3つ)の一部を思い出している ii. 走りの練習の一部を思い出している iii. 美しく走るための情報を応用しているが、成功は限定的である
3-4	i. スキルと技法を思い出している ii. 方策と運動概念を思い出している iii. パフォーマンスを行うための情報を応用している	i. 走りのポイント(3つ)を思い出している ii. 走りの練習を思い出している iii. 美しく走るための情報を応用している
5-6	i. スキルと技法を思い出し、応用している ii. 幅広い方策と運動概念を思い出し、応用している iii. 効果的にパフォーマンスを行うための情報を応用している	i. 走りのポイント(3つ)を思い出し、応用している ii. 幅広い走りの練習を思い出し、応用している iii. 効果的に美しく走るための情報を応用している
7-8	i. 幅広いスキルと技法を思い出し、応用している ii. 幅広い方策と運動概念を思い出し、応用している iii. 効果的にパフォーマンスを行うための情報を思い出し、応用している	i. 3つ全ての走りのポイントを思い出し、応用している ii. 幅広い走りの練習を思い出し、応用している iii. 効果的に美しく走るための情報を思い出し、応用している

授業づくりと形成的評価



学びを育むファシリテーターとしての教師

• 学びのプロセスに焦点を合わせる

生徒の焦点を学びのプロセスに向ける課題と指導法を優先的に扱う

• 概念的な理解を現実世界の状況とつなげる

生徒を、なぜ?、いつ?、どのようにしたら分かるのか? どの状況だと当てはまるのか? といった、主軸となる質問形式の問いに参加させる。

教育的対話

- 教員による制御
- “正しい”答えへの導き
- 正しい答えが評価される
- クローズド・クエスチョン
- 教員が生徒よりも“話す時間”が多い
- 限られた参加
- 既知の結果に注目する
- 教員が真実を握っている

対話的教育

- 教員と生徒による共用制御
- 可能性を探ることへの導き
- “間違っ”た答えや挑戦することが評価される。
- オープン・クエスチョン
- 生徒は教員より“話す時間”が多い
- 包括的参加
- 予測不可能
- 真実は共有成果

現状確認...今の自分の走りを知る

3つのポイントを確認

これから目指す走り

なぜ"3つのポイントが"大事なんだ"3つ

→ レポート課題

① 現状把握

自分の走り方(フォーム)
自分の記録(タイム)
を知る。→撮影・計測①

※既習事項を想起させる!

② フォーム > タイム

- 腕振り(腕)
- 体幹(軸)
- キック(脚)

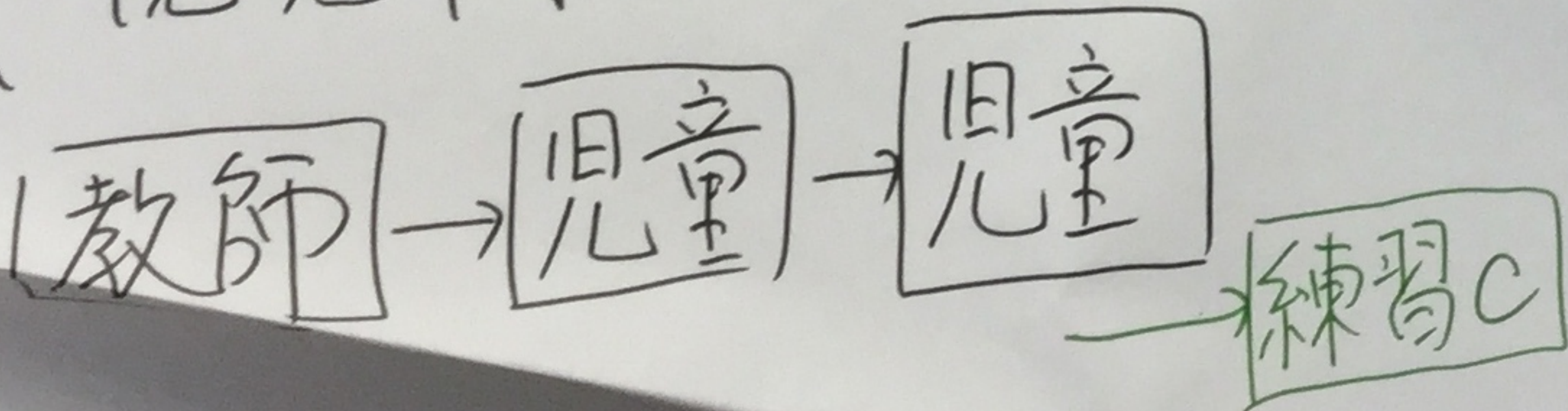
バランス
美

→練習B

⑤

③ 指導・助言

- 言語情報 →
- 視覚情報 → イメージ化



④ フォーム < タイム

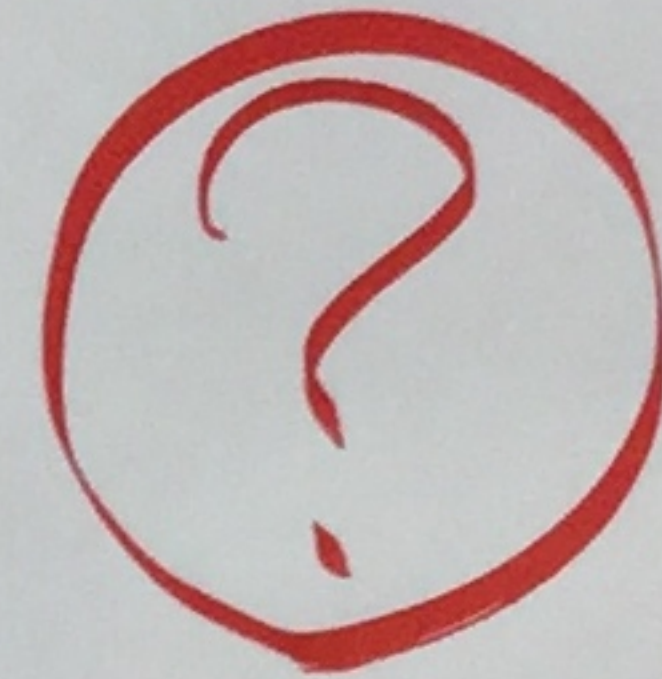
(協働学習をもちに...)

改善する。
各自の課題を

...応用する。
→技能の習得

→練習D

50m走



- 児童の意欲
→ (関心・意欲・態度)
- 「美しさ」・「速さ」
→ どちらに向かわせるのか